

令和5年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係るシンポジウム

北海道教育庁十勝教育局教育支援課義務教育指導班 令和6年3月

学校における道徳教育では、子どもたち一人一人に、将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を切り拓いていく力など、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが求められています。

十勝教育局では、道徳科の授業公開など、家庭や地域に開かれた道徳教育を推進し、児童生徒のよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成について共通理解を深め、家庭や地域社会との連携による道徳教育の充実に必要があることから、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業「道徳教育の抜本的改善・充実に係るシンポジウム」を上士幌町立上士幌小学校を会場に開催しました。

よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に向けた家庭や地域社会との連携による道徳教育の充実

令和3年度道徳教育実施状況調査から見えた道徳教育を推進する上での課題

「家庭や地域社会との連携・協力」と回答した全国の学校の割合＝**小・中学校ともに約5割**

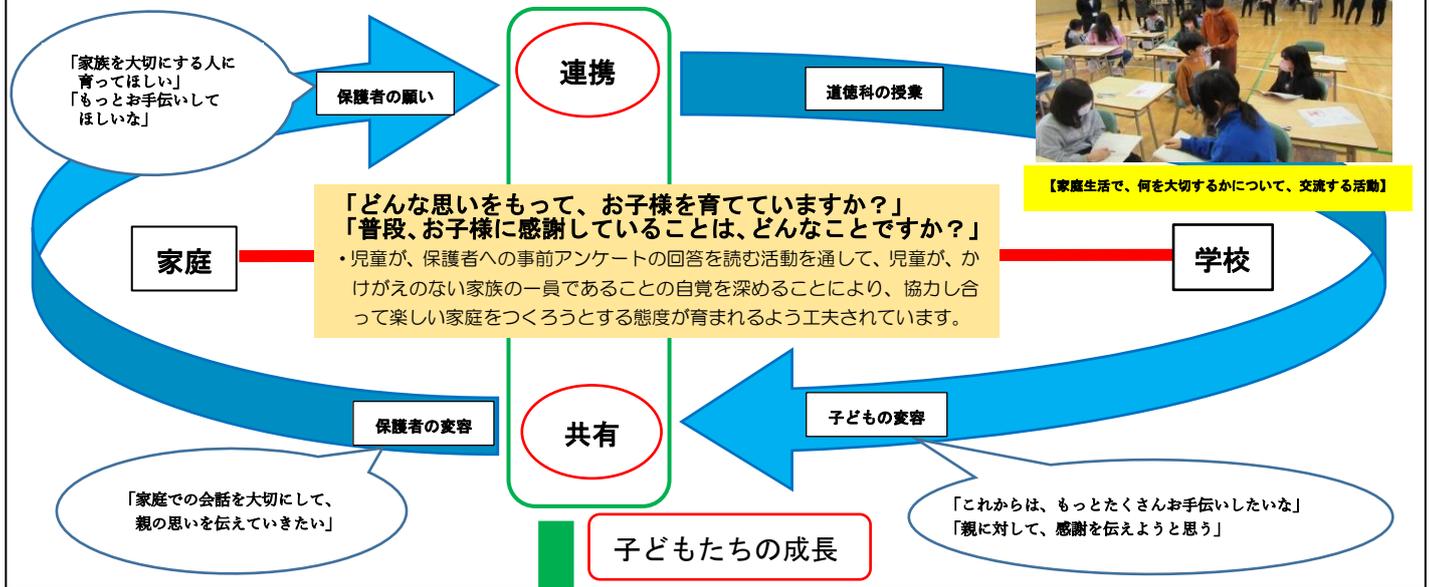
⇒家庭や地域に開かれた道徳教育を推進し、児童生徒のよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成について共通理解を深める必要があります。

家庭と連携した道徳科の公開授業：上士幌町立上士幌小学校 第4学年

- 主題名：「家族の助け合い」〔家族愛、家庭生活の充実〕
- 教材：「お母さんのせいきゅう書」（東京書籍「新しいどうとく 4」）
- ねらい：家族の一員として、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくらうとする態度を育てる。



【家庭生活で、何を大切にするかについて、交流する活動】



シンポジウム

- ・上士幌小学校道徳教育推進教師、十勝管内の3名の 小学校教務主任及び十勝教育研究所員が、各校の家庭や地域と連携した様々な取組を説明しました。
- ・上士幌小学校保護者による家庭と連携した道徳教育に係るご意見、ご感想を踏まえ、参加者と交流しました。

【シンポジスト】

「情報モラルや生活リズム等の問題意識を、保護者と学校で共有することが重要」

【保護者】

「学校が保護者に発信するだけでなく、保護者が学校に思いを伝えることが大切」

【教員】

「日常的に指導の内容を保護者と共有し、互いに理解を深めていきたいと思った」



【シンポジスト説明資料】

学校が、道徳科の授業を通じた児童生徒の変容を家庭や地域に発信し、家庭や地域が、学校にフィードバックを行うなど、学校と家庭や地域が両輪となり、道徳教育に係る共通理解を深め、相互の連携を図りながら道徳教育を進めることが肝要です。

本事業の授業実践や、シンポジウムの内容を参考に、各学校における道徳教育の充実をお願いします。